

平成21年度 第28回 助成先決まる

本年度までの助成実績 2116先、1億8,900万円

《産業開発部門》

日新興業株式会社

代表取締役 河野孝夫
住所/延岡市本小路七四番地

事業内容/オートグラウトホール
空洞自動計測調査孔



当社は、土木と建材の2つの事業を柱として、道路や橋の建設から各種防水工事までの様々な工事を行っている。「オートグラウトホール空洞自動計測調査孔」は、堤防機能低下の一因である底部下部空洞量を効率的に調査する地盤変位量計測器である。河川の堤防横断構造物(橋門・樋管)及びコンクリート構造物の地下空洞化調査が簡素化でき、定期的な調査が実施できることにより調査費等のライフサイクルコストの縮減に効果を発揮する。国土交通省が運用する新技術情報システム(NETIS)の登録を受け、ホームページでも技術情報が公開されており、今後一層の普及が期待されている。

《県産品・地域振興部門》

ミルククラブ中西牧場

代表 中西 廣
住所/都城山山ノ口町富吉四六一九番地

事業内容/乳製品の商品開発と販売



当牧場は、牛乳の大切さをアピールし消費拡大に努めるとともに、酪農家の新しい活路として乳製品の商品開発と販売に日々取り組んでいる。生産調整で破棄していた生乳の有効活用の一環として、古代食の蘇を商品開発し「甘乳蘇」として製造販売をしている。また、バターのような甘い香りのある「醍醐」は、50kgの生乳から僅か250ccしか製造できない商品で、5年の歳月をかけて商品化に至った。甘乳蘇は「宮崎県優良県産品推奨制度」の優良県産品にも推奨されており、更なる販路拡大が期待されている。

《学術研究部門》

宮崎大学 農学部

准教授 那須哲夫
住所/宮崎市学園木花台西二丁目一番地

研究内容/日南市に生息するオキナワキノボリトカゲの生態学的・形態学的研究



日南市油津に移入され定着しつつある、国内外来種オキナワキノボリトカゲは、この地域に在来分布するトカゲ類とは異なる食性を示している。今後その分布地域が広がると、在来の爬虫類や昆虫類などの生態系に大きな影響を及ぼし、社会問題に発展する可能性がある。現在、日南市の協力も得て調査研究を行っており、オキナワキノボリトカゲの生態学的・形態学的特徴について解明がすすんできている。今後さらなる調査研究により、分布拡大阻止に向けた、オキナワキノボリトカゲ定着のメカニズム解明が期待される。

《産業開発部門》

有限会社 日向キヤスティンダ

代表取締役 笹部 太三郎
住所/日向市東郷町山陰乙二二五番地

事業内容/一体化技術による薄肉中子を使用した鋳物製造



当社は、船舶用ポンプ・スクリュー・プロペラ等の青銅鋳物・アルミ鋳物の鋳造及び機械加工を手掛けている。従来、2枚の鋳物を製造し、出来上がった2枚の鋳物を一体化する製造方法が主であったが、当社は薄肉中子(砂型)を使用した一体化の鋳物製造技術を開発した。これにより鋳物の工程削減とコスト削減が可能となり、船舶メーカーへの納入鋳物にこの技術が採用されている。技術開発や従業員教育にも熱心に取り組んでおり、薄肉中子使用の一体化鋳造技術力により更なる発展が期待されている。

《学術研究部門》

宮崎大学 教育文化学部

准教授 早野慎吾
住所/宮崎市学園木花台西二丁目一番地

研究内容/宮崎県椎葉村方言の記述的研究



宮崎県への移住をきっかけに宮崎県方言の研究を行うようになった。宮崎県は長年にわたり、方言研究ののちも遅れた地域という好ましくないレッテルを貼られてきたが、それは調査が行われていなかっただけで、本県方言の研究価値は非常に高い。現在、その貴重な方言が急速に失われつつあり、方言記録が急務となっている地域もある。その一つが椎葉村である。椎葉村は本県においても独自の地域文化を発展させた地域で、方言にも独自性がある。本研究では、椎葉村の貴重な言語文化を失われる前に記録し、後世に残す。

《ベンチャー企業部門》

株式会社 地震工学研究開発センター

代表取締役 野中哲也
住所/宮崎市学園木花台西二丁目一番地

事業内容/重要生産・社会基盤構造物の耐震解析・診断システムの開発



当社は、宮崎大学工学部の原田隆典教授の震源断層を考慮した地震動の予測法などの研究成果をベースに、耐震診断コンサルティングを行う平成18年創業の宮崎大学発ベンチャー企業である。製造所・化学工場などの生産施設並びに、橋梁・ガス・水道・電気施設などのライフライン施設を含む社会基盤構造物の耐震診断システムとその補強法を開発している。宮崎大学との共同研究や連携により重要生産施設などへの高度な顧客ニーズに対応できるのが当社の強みであり、宮崎県発の技術力は高く評価されている。

《県産品・地域振興部門》

有限会社 都城ボラ土

代表取締役 山口 昭一郎
住所/都城山山田町大字山田三九八三番地六九

事業内容/宮崎県産品である「ボラ土」を活用した家庭園芸の普及及び緑化整備事業の推進



「ボラ土」は、約3,700年前と約3,000年前の2回にわたる御池の大噴火によってもたらされた火山性の堆積土で、山田町の特産品である。当社のボラ土は、園芸用土の単用土並びに培養土の原料として西日本を中心に流通している。また、当社のボラ土は、グリーンエコ事業の土壌改良材として、芝生用耐圧基盤土壌材及び街路樹の根系誘導耐圧基盤材にも利用されている。校庭・公園・屋上等の緑化整備事業において、宮崎県産品「ボラ土」の抜群の排水性が注目されており、更なる需要と当社の発展が期待されている。

《学術研究部門》

宮崎大学 工学部

准教授 西岡賢祐
住所/宮崎市学園木花台西二丁目一番地

研究内容/新規集光型太陽光発電システムの宮崎県への普及を旨とした出力特性解析



集光型太陽光発電は、安価なレンズで光を集光し、小さな太陽電池に照射することで、高価な太陽電池の使用量を少なくすることができ、トータルコストを下げることができる新しい方式の太陽電池である。本研究は、宮崎大学に平成21年10月16日に設置された、日本最大14kw集光型太陽光発電システムの出力特性解析を詳細に実施することにより、新規システムである集光型太陽光発電を宮崎県に設置した場合の有効性を示し、宮崎県の太陽光発電関連産業の活性化に貢献することをめざすものである。

《ベンチャー企業部門》

株式会社 リード・ウイユ

代表取締役 中田 雅信
住所/宮崎市千草町五番二一五 M N 1319ビル4階

事業内容/化粧品類と健康食品の開発・卸販売 地場産品や加工食品の通信販売



当社は、平成18年6月創業で、サプリメントや化粧品の開発・卸販売、地場産品や加工食品の通販事業などを行っている。独自の商品企画力で時代にマッチした商品開発に取り組み、化粧品「ラブアンドヘイト」、薬用歯磨き粉「バイカルデンタルクリアジェル」、モミ精油原料の「モミアリア」などの数々のヒット商品を生み出している。また、テレビ・ラジオショッピングやホームページにて、「だんらん本舗」の屋号で県産品などの通信販売事業も行って、宮崎発ベンチャー企業として更なる飛躍が期待されている。